

「武庫川女子大・甲子園会館」及び「芦屋浜高層住宅」見学会終了報告書

1. はじめに

特定非営利活動法人日本防火技術者協会（以下、防火技術者協会という）は、防火技術者の技術と倫理基準向上に寄与することについて、高度な技術と資質を有するものを「JAFPE 防火技術者」として認定し、その活動を通じて社会貢献に資する役割をより明確にし、自覚と研鑽を促しているが、残念ながら関東地区の会員を除くと教育の場の提供や CPD 得点獲得の機会が少ないのが現状である。

今回、関西地区において防火技術に参考となる建物に対する見学会を企画、開催し教育の場の提供や CPD 得点獲得の機会を設けたので、その効果の確認の意味も含まれる。

記録：角谷三夫、久次米真美子

2. 実施内容

今回の見学会の企画は、小林(裕)担当理事の体調が悪かったことより小林(恭)理事、富松元理事と関西地区の角谷、久次米会員が協力して見学場所や案内などの調整を行った。

2.1 「武庫川女子大・甲子園会館」の見学

集合日時：平成 28 年 12 月 6 日 10:30

集合場所：武庫川女子大 上甲子園キャンパス正門

見学時間：10:30～13:00

見学箇所：武庫川女子大の甲子園会館（旧甲子園ホテル）と新校舎

- ① 甲子園会館（同一敷地内） 1930 年竣工。登録有形文化財。
（甲子園会館は数少ないライト様式の文化財建築、建物案内、および 3.11 以降の学校防災の取組みの紹介）
- ② 武庫川女子大 建築スタジオ（2006 年竣工。ルート B 全館避難検証）

参加費用：無料

参加者：（関東会員）矢代、笠原、小林（恭）、富松、栗岡、堀田

（関西会員）大西、角谷、久次米（会員外）飯村

案内：岡田（日建・建築スタジオ設計者）

見学概要：

午前登録有形文化財である甲子園会館（旧甲子園ホテル）を中心に案内して頂いた（写真 1, 2, 3 参照）。現在は武庫川女子大のキャンパスとして使われているが、当時のデザイン保存や阪神大震災で破損した部位の修復など会館担当者から貴重な話を聞かせて頂いた。

また同敷地内の庭園を通過して、建築学科スタジオへ移動して日建設計の設計担当者岡田氏から、ガラス張りの設備スペースや剥き出しの PC 梁端部など学生らに生きた建築を随所に見せる工夫をした旨などについて説明を受けた。参加されていた竹中工務店の飯村氏は同大学の他キャンパスの設計担当者であり、同大学全キャンパスの防災取組みについてご紹介をいただいた。



写真1：庭園での集合写真



写真2：甲子園会館正面内部の状況



写真3：庭園から見た甲子園会館の柱の状況



写真4：建築学科スタジオの外観



写真5：建築学科スタジオの
内部アトリウムの状況

2.2「芦屋浜高層団地」の見学

移動：タクシー分乗で移動（約30分）

見学時間：14:00～16:00

見学箇所：芦屋浜高層団地

参加費用：無料

参加者：（関東会員）矢代、笠原、小林（恭）、富松、栗岡、堀田
（関西会員）角谷、久次米

案内：吉岡消防司令長、藤本消防司令+他2名（芦屋市消防本部）

芦屋浜高層住宅は当時の建設省主催の技術提案競技により 1979 年に竣工した日本建築学会賞受賞の高層住宅団地である。20ha の敷地に最大 29 階建ての工業化住宅 50 棟近くを建てた巨大国家プロジェクトで、真空集塵システムと集中暖房システムを持ち、5 層ごとに設けた中間避難階で延焼防止と避難動線の確保を行っているほか、耐火被覆のない鉄骨メガフレーム、防火戸の代わりに設けたドレンチャーなど、今でも驚くような防火対策が施されている。それら先進技術が 40 年後にどうなっているかが見学の見所である。1995 年兵庫県南部地震でそのメガフレームが何カ所も破断しましたが、その修理箇所も見学の目的である。

見学概要：

芦屋浜高層住宅の見学は、芦屋市消防局の案内により実施された。

この団地は、当時の建設省が実施した 1972 年募集の工業化工法による提案競技で選ばれた ASTEM 企業連合による高層団地であり、鉄骨のメガストラクチャ架構に、5 層毎のメガフレーム階の間に壁式構造の共同住宅が嵌め込まれている。

メガフレーム階は空中公園兼中間避難階でもあり、エレベータホールをドレンチャーで区画するなど当時の新しい試みが見られた。またメガフレーム階に設けられた真空集塵システムは当時の最新技術で今も使われているものの、ゴミ分別に対応できないなど集中管理式の設備システムが時代の変化で苦勞している様子もうかがえたが、全体として当時の最先端技術を建築に適用しようと奮闘した技術者の心意気が感じられた。



写真 6：芦屋浜高層住宅団地中庭での集合写真

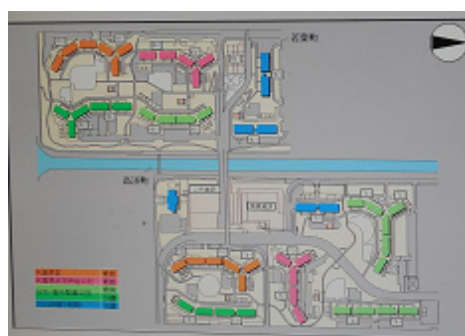


写真 7：団地の配置図



写真 8：阪神淡路大震災時の
破綻箇所
(2層目の辺り)



写真 9：ゴミ投入口
(1階設置部)

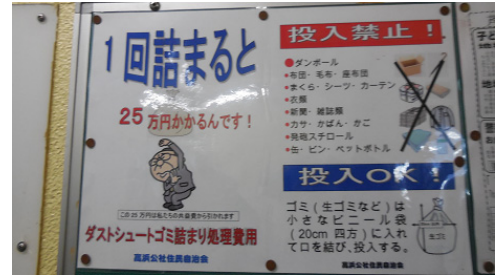


写真 10：ゴミ投入口周辺に
貼られている警告文

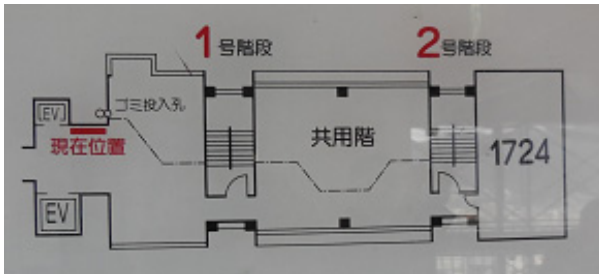


写真 11：共用階の平面図



写真 12：共用階の共用エリアの使用状況



写真 13：階段室前の防火戸の代わりに設けたドレンチャー

3. おわりに

今回、関西地区において見学会をはじめて企画したが、非常に成功裏に終わった。

「武庫川女子大・甲子園会館」は、明治村の帝国ホテルのように見学だけに供されるのではなく、建築学科の学生達に実空間に接するという極めて実践的な教育の場に利用されていた。他の教育内容を含めて、見学者一同、この大学での教育システムに感心しきりであった。

近年では、大地震発生時の広域な避難計画などは検討されているが、一方、「芦屋浜高層団地」で見られたような団地全体の防災計画や新しい試みが少なくなっている。その意味で今回の見学会は新しい企画にチャレンジした先輩技術者の心意気と知恵を学ばせて頂いた。

CPD 得点獲得だけでなく、防火技術者同士で議論しあい、防火技術をブラッシュアップさせる機会を設けていくべきだと思われる。

以上